

この度森鷗外記念館では設立 30 周年記念事業の一環として 10 月 11 日（土）に以下のようにシンポジウムを開催する運びとなりましたことご案内させていただきます。

タイトル「森鷗外と公衆衛生の国際史」

日時：10 月 11 日（土）13 時 30 より 17 時まで

場所：フンボルト大学大講堂（Unter den Linden. 6 Hauptgebäude 1.0G）

シンポジウムは日独の同時通訳有り

近代の日本に公衆衛生学という学問を導入したのは、森鷗外ら、ドイツ医学を学んだ留学生たちだった。当時世界の最先端の医学を走っていたドイツでも、公衆衛生学は、まだ新しい学問であった。世界の先進国では近代的な街づくりが試行錯誤の中進められており、街づくりにあたっては公衆衛生の考え方を取り入れることが必要、と主張する人が出ていた時期でもあった。

森鷗外はまさしくその頃のベルリンに留学し、人々の健康を向上させるには、公衆衛生の考え方を日本の近代化のさまざまな面に取り入れなければならない、と考えた。そして、帰国すると公衆衛生の教育を積極的に進め、小池正直と共著で初めての日本語による衛生学の教科書、「衛生新編」を発行する。東京の街づくりに際して専門委員に就任すると、下水道整備の重要性を説き、特に貧しい階層の人々の健康を改善することにより社会全体の健康向上を目指した。

一方、近現代社会では、国境を越えた感染性疾患の広がりはおもはや当然のこととして、近年その速さに対応が追い付かないことが問題になっている。このような時代にあって、日本とドイツが果たしていかなければならない役割はなんだろうか。今回のシンポジウムでは、公衆衛生の国際的な歴史を振り返り、ドイツ医学が果たしてきた役割、ドイツ留学から戻り日本独自の公衆衛生を花咲かせた鷗外の業績、世界の公衆衛生に果たし得る日独の役割などについて専門家が講演する。

お問い合わせ&申し込み：[makoto.kashiwabara@hu-berlin.de](mailto:makoto.kashiwabara@hu-berlin.de)

当日参加も可能ですが、同時通訳機の数に限りがありますので事前申し込みをお願いしております。

# 第2回 日独シンポジウム

ベルリン・フンボルト大学森鷗外記念館設立30周年記念  
- 鷗外訪独130周年記念 -

Mori Ogai and the International History of Public Health  
森鷗外と公衆衛生の国際史  
(新しい予防医学の三大学(千葉・長崎・金沢)共同大学院設置を目指して)

日時 2014年10月11日(土) 13:30 - 17:00  
場所 フンボルト大学本館 講堂(ドイツ・ベルリン)  
参加者 予防医学、公衆衛生学、社会学等の専門家、学生、  
テーマに興味のある一般の方  
問合せ 千葉大学予防医学センター  
E-mail: makoto.kashiwabara@hu-berlin.de

※ 日独同時通訳有

## プログラム

- 13:30 開会の挨拶  
フンボルト大学 国際課 Ursula Hans 課長  
千葉大学 徳久剛史学長  
在ドイツ日本国大使館
- 13:50 講演1「森鷗外と知識の多様性」  
Harald Salomon: ベルリン・フンボルト大学森鷗外記念館館長
- 14:20 講演2「鷗外とドイツと公衆衛生」  
森千里: 千葉大学予防医学センター長
- 14:50-15:00 - Coffee Break -
- 15:00 講演3「鷗外と赤十字社の歴史」  
Frank Kaeser: ベルリン自由大学 日本学科
- 15:30 講演4「鷗外の果たした役割を通して日独医学が果たしうる  
グローバルヘルスへの貢献を考える」  
中谷比呂樹: 世界保健機関(WHO) 事務局長補
- 16:20 質疑応答
- 16:50 閉会の挨拶  
Harald Salomon: ベルリン・フンボルト大学森鷗外記念館館長  
中村 裕之: 金沢大学革新予防医学教育研究センター長



【主催】 千葉大学・フンボルト大学・在ドイツ日本大使館  
【共催】 金沢大学・長崎大学  
文部科学省国立大学改革強化推進事業

明治45年頃、軍医総監当時の鷗外  
文京区立森鷗外記念館所蔵